

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2013年度 第12回

報告題名 (title) : 為替レートの変動が農業生産に与える影響とリスクヘッジ

報告者 (name)	江守 智夏子	日時	12月19日 午後3時～
所属分野 (labo)	農業経営経済学分野	場所	第2講義室
座長	西田 陽平	議事録担当者	町田 奈々子

出席者

長谷部、木谷、盛田、米澤、米倉、冬木、伊藤、石井、八木、タンボウニ、山口、カライ、ナスン、趙、今井、井上、佐々木、志賀、西田、朴、オウ、伊藤、江守、小田嶋、金、藤井、町田、秀、武居、畠山

報告要旨 (Abstract)

1972年8月ニクソンショックによりドルを中心とする固定相場制の基盤が崩れ、1973年の春から世界各国で変動相場制がとられるようになった。それに伴い、日本でも変動相場制がとられるようになり、現在のように日本経済は為替相場の変動による影響を受けるようになった。多くの原料を輸入にたより、多くの生産物を輸出している工業分野においては、為替相場の変化によって大きな影響を受けるため、為替相場は常に注目され、その変動におけるリスクヘッジが行われてきました。このような為替相場の変動による影響を受けるのは工業分野だけではない。現在ではコスト削減のためや必要な資材を手に入れるために、農業分野においても多くの中間投入財を海外からの輸入に頼るようになっている。そのため、アベノミクスによる円安が進むことにより、輸入飼料の高騰による畜産経営への影響や原油の高騰による施設園芸への影響が懸念されている。もちろん農業分野においては中間投入財自体の価格変動が大きいといえるが、為替レートの変動による影響も無視することはできないと考えられる。

そこで、本研究では産業連関表を用いて為替レートの変動が農業生産における中間投入財の輸入に与えた影響を明らかにする。そして農業生産において為替レートの変動によるリスクをどのような方法で軽減することができるのかを明らかにする。

質疑・応答(Q & A)

今井：研究目的には“現在の農業生産に与えている影響を明らかにする”、分析手順では“農業生産構造に与える影響をみる”と書いてありますが、江守さんはどちらを明らかにしたいのでしょうか？

江守：あまりその言葉の区別はしていなかったです。為替レートの変動が個々の農産物の生産に与えている影響ということで間違いないと思います。

今井：その影響とは具体的に何でしょうか？価格や生産量とかなのでしょうか？

江守：はい、価格や生産費用などです。

冬木：前の質問とも関係するんですが、コストだけでいいんですか？農業生産全体だと為替レートの変動でアウトプットの価格が変わってくるでしょ。要するに輸入農産物の価格も変わってくるから、そうするとそれも反映させて生産量推計までしていくことになるからより複雑になっていくので、どこまでやるのかははっきりさせておいた方がいいかなと思った。もうひとつ、最後のところで、おそらく為替レートの変動で当然のことながら影響がでて産業連関でやったらかなり定量的にでると思うんですけど、そのあとのリスクヘッジのところではアヒリングが前の分析とつながらないんですけどそこをどう考えているかなと思って。

江守：一つ目の質問ですが、まずコストの変化を出そうと考えていました。二つ目の質問は、産業連関表から何に対してコストが上がるのかと見ていった時に、たぶんコストが上昇したときに必ずしも生産費に反映されているという訳ではないと思うので、そこで他の物価指数と比較したときに販売の価格の時点でコストの変動を吸収しているのかとか、農産物に生産費までは影響を与えているけど消費者のところまでは届かないで生産者が吸収しているのかとかそういうところをみて吸収している所がどうして吸収できるのかとか、何をやっているのかをみたら、と思っています。

冬木：インプリケーションをもしこの分析から得られるのだとしたら、餌で例えば今現実にとうもろこしの価格があがって、国の言い分で餌米が増えるでしょ、産業連関分析を用いて仮の想定で餌の生産費の餌の部分が入り替わったらどうなるのかとかやったらかなり政策的にインプリケーションが得られるんじゃないかと思いました。社会的に意義のあることができるかどうか考えてみたら面白いと思います。

米倉：投入費の構造が変わってそういう影響をみようということだと思うんですけど、最終需要が動かないという想定でやるとたぶんあまり動かなくてたぶん面白くないと思う。最終需要が動いて、例えば米作ってた農家がやめて牛を育てるようになるとかそうなれば産業構造の変化という風に言えると思う。でも最終需要って一番大事なのは価格でしょ、為替レートの変動っていうのは最終生産物の全体にかかってくるんだけどそちらの影響の方がはるかに強くでるでしょ。そうすると最終需要のことを無視して議論してもあまり面白い話は出来ないと思う。プロテクションがかかっているとか、あるいははずすとか、貿易の自由化のことからめていかないと面白い話ができなくて、産業連関表で一番やられていることは産業構造がどう動くか、つまり国際間の産業構造がどう変わるかとかで、プロテクションがかかっているところでやって動きそうもないところだとあまり面白くないんじゃないかなというのが、わたしの感想です。

江守：面白く出来るようにがんばります。

木谷：コメントとして、産業連関表を用いた分析では、投入係数が変わらないという想定になり、実際の農業生産とはかけ離れた分析になってしまう気がします。あと、卒業論文からどうしてテーマが変わったんですか？

江守：前回の結果をみて、企業が食育に参入していくのは難しい部分があるかと思いました。その他の点については後ほど個人的にお話しします。

長谷部：この研究の独自性はどこにあるのか？

江守：一番の目的は、リスクヘッジをするためにはどうすればよいのかを明らかにすることで、まず現状を把握するために産業連関表を用いた分析を行うのが確実だと思ったので、本日の報告では産業連関業による分析をメインで発表しました。しかし、気持的なメインはリスクヘッジなので、そちらの分析で独自性を出していきたいと考えています。